

第 65 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第六五回 2014 年 3 月 15 日 (土) 時間 : 13 : 30 ~ 17 : 00 於 : 専修大学 (神田校舎) >

参加者 : 尼野、石川、井端、大野、小林、杉本、夏目、浜田、宮川、山本、依田、渡邊
(12 名)

1. テーマ : 再生企業の分析—パナソニック株式会社—

・ 報告者 : 杉本敦彦 ・ 配付資料 : 8 枚

・ 報告内容の要旨

本報告は、パナソニック株式会社 (以下、パナソニックとする) の企業再生について、財務数値の変動要因の観点から検討した。

パナソニックの 2013 年 3 月期の売上高は、2008 年 3 月期に比べて約 2 割減少しており、事業が縮小傾向にあるとの見通しを立てている。三洋電機と合併したことを除いて考えれば、実質の売上高は 3 割以上の減少している可能性があるとの推測した。加えてここ数年の決算期において巨額な赤字計上により財政状態の悪化を指摘した。巨額な赤字計上は、テレビ事業の不振によって、固定資産の減損損失計上が主原因として考えられる。テレビ事業は競合する海外メーカの安価な製品に市場を奪われたこと、国内国外の市場ニーズ以上の性能を開発続けコストがかさんだ点から、経営戦略の失敗を推察した。会員の見方には、既に危機的状況にあるとの見方もあり、議論が生じた。パナソニックの再生の可否については、2014 年 3 月期の決算内容を踏まえ、さらなる検討が必要であるとの結論にいたった。

1. テーマ : 外部講演会『資本と知識と経営者』

・ 講演者 : 亀川雅人 (立教大学・教授) ・ 資料 : 『資本と知識と経営者—廃構から現実へ—』

・ 講演内容の要旨

本講演では、企業の視点と経営者の視点から、企業経営の再生にむけた着眼点を養うものである。とくに、経営目的を収益の獲得とした場合における経営者と資本との関係性を中心に教授した。

経営者は、将来のビジョンを示し、目的達成することを約束して資本を集め、それを投資して利益を生み出している。しかし、経営環境の変化が激しい状況において、今後、企業が成長や経営の再生にとりくむためには、将来のビジョンを明示し、それにむかったイノベーションが必要であるとした。しかし、目的達成のためには常にリスクが伴い、イノベーションをおこなうためにもリスクを伴うため、リスクの許容が必要である。イノベーションをはかることで、企業の将来性を見出すことができると考察した。また、近年における IT 分野の発展など社会全体の仕組みは、時代とともに変化している。それゆえ、経営の目的を達成するためには、多くの情報を分析する必要があると考察した。

(文責 : 浜田勇毅)